

いしずえ

甲斐市立双葉東小学校 平成22年2月26日号

平成21年度学校評価結果及び学校関係者評価委員会報告

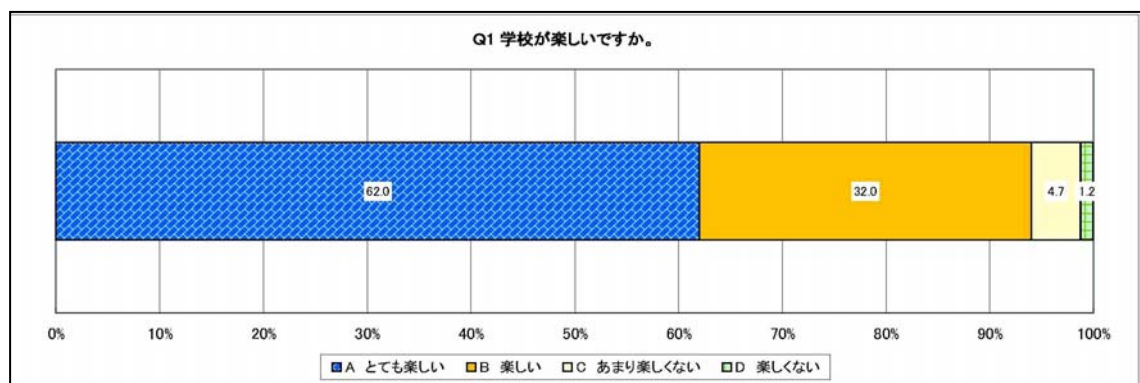
春の息吹を感じる今日この頃、保護者の皆様方には常日頃より双葉東小学校教育へのご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、平成22年1月28日(木)午後7時30分より双葉東小学校会議室において、第2回学校関係者評価委員会が開かれました。学校関係者評価委員の皆様方には真摯な討議をしていただいたことに感謝申し上げます。今回の貴重な意見提言を踏まえ、職員一同力をあわせすばらしい学校になるようしっかり取り組んでいきたいと思っております。(以下は、学校関係者評価書としてホームページに掲載したり、教育委員会へ提出したりしたものです。ご覧ください。)

1 全体評価

自己評価結果は総じて、高い水準にあった。項目Ⅰ「学校教育目標・学校経営について」、項目Ⅱ「学校運営について」、項目Ⅲ「学習指導について」、項目Ⅳ「生徒指導について」、項目Ⅴ「地域との連携について」、項目Ⅵ「学校の特色に関して」の全てにおいて高い数値結果であった。自己評価項目全49質問の全てが肯定的評価(A・B)としてまとめられる。ただ、否定的評価(C)は、6項目あり、そのすべてが1名(3.4~4.0パーセント)であった。

前期同様後期も高水準にある。児童アンケートの結果からも、心の教育を中核とした双葉東小学校の充実に向けて、教職員が一丸となってきた結果であると捉えられる。さらに、職員の意識の向上に努めたい。



2 項目ごとの評価結果 (達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について

質問項目の7項目すべてにおいて、肯定的評価(A・B)であった。その肯定的評価(A・B)の中でも、質問番号1~3の3項目については、B評価よりA評価の方が高い評価結果であった。しかし質問番号5~7の3質問はA評価よりB評価の方が若干高い評価結果であった。また、質問番号4については、A・B同等(50パーセント)の評価であった。後期評価結果と前期評価結果とを比較すると、A・Bの評価傾向は似ている。しかし、B評価よりA評価の方の絶対数が増加しているということは、教職員に意識改革があったことが伺える。この「学校教育目標に関して・学校経営について」の項は、高い評価結果といえる。

改善策

- ・学校の教育活動全体でのP→D→C→Aサイクルの取り組みは、教職員個人のP→D→C→Aサイクルの教育活動の取り組みより、評価結果は高かった。教職員個人のP→D→C→Aサイクルの教育活動の取り組みは、前期よりは意識化されてはいるが、課題は残る。各行事が終わるごとに、反省を行い次回に生かすようにしているが、個人と学校のP→D→C→Aサイクルの効果的な関連と連携が必要である。今後も学校だけでなく、学級におけるマネジメント研修の機会をもつことも必要である。
- ・多忙化する学校現場の現状の中、福利厚生や健康管理への配慮として、組織的に計画的に厚生事業や健康相談活動を取り入れていかなければならない。また、教職員の和やかな雰囲気継続しつつ、教職員一人ひとりが楽しく、生き甲斐をもって活躍できる職場作りやよりよい人間関係が作れるように、今後も取り組んでいきたい。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

質問項目の9項目において、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中でも、質問番号1・5・6・7については、B評価よりA評価の方が高い評価結果であった。特に校舎内外の安全点検については、毎月定期点検をしているため、教職員の意識も高いことが伺える。しかし質問番号2・4・8の3項目については、A評価よりB評価の方が高い評価結果であった。また質問番号2・5・8については、1名（3.4～3.6パーセント）のC評価があった。立場で、他の職員と比較をしての評価とも感じられる。質問番号3・9については、A・B同等（50パーセント）の評価であった。この1年、教職員は非常に熱心に、かつ主体的に校内研究に取り組んできた。学校教育活動すべてにおいて「報告、連絡、相談、確認」は、必要不可欠なことであり、教職員が、他の職員と相互理解や信頼関係を深めて教育活動にあたっているため、この体制を引き続き維持していきたい。この「学校運営について」の項も、高い評価結果といえる。

改善策

- ・危機管理については、年度初めに職員会議で教職員の理解を図り、その対応についても確認はしたものの、これまでに事故もなく過ごすことができたために、危機管理マニュアルの確認という点で、B評価が高くなったと思われる。教職員一人ひとりがリスクマネジメントへの理解と実践力を高める必要がある。より実効性のある避難訓練の実施や危機管理マニュアルの作成にも努めなければならない。
- ・今後もさらに職員会議や校内研究会の充実を図るとともに、個々の教職員の適性・特性が生かされ、調和のとれた校務分掌の構築と、全校体制を基盤とした協力・協働体制のより強化を図る学校運営に努めなければならない。さらに創意工夫した教育活動を進めていきたい。

III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

質問項目の9項目の全てが、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中で、質問番号1・3・7・8については、B評価よりA評価の方が高かった。しかし質問番号2・4・5・6・9の5項目については、A評価よりB評価の方が高い評価結果であった。また、保護者アンケートより質問番号8・11については、否定的評価C（1.8～9.4パーセント）である。

この「学習指導について」の項も、高い評価結果といえるが、教職員の日頃の様子から、自分に対して非常に厳しい評価をしていることが感じられる。

改善策

- ・わかる授業・楽しい授業の創造に向け、教材研究・実践研究を通じて、常に授業の充実を図る必要がある。また、教材のもつ本質や真理に迫る質の高い授業作りにも努めなければならない。授業公開や人事評価制度の授業観察などを通して、教職員の指導力の向上をはかり、全教職員が迷いなく、A評価をつけられるよう取り組んでいきたい。
- ・児童の実態を的確に把握し、学校教育活動全体を通して、児童に寄り添う姿勢を大切に

ながら、児童理解に努めることが大事である。

- ・児童一人ひとりの居場所を確保しながら、自由に質問や発言できる居心地のよい学級作りに努めることが、これからますます求められる。
- ・A・B評価については、保護者との認識の差が感じられる。保護者は、子どもを通して学校教育を評価していると思われる。保護者からも信頼される教職員であるよう、日々研鑽に努めていかなければならない。

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

質問項目の7項目の全てが、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中でも6質問がB評価よりA評価の方が高い評価結果であった。しかし質問番号3はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。また質問番号3・5には各1名（3.4～4.0パーセント）のC評価があった。D評価はなかった。

保護者アンケートの質問番号15では、肯定的評価（A・B）が78.9パーセントであるが、否定的評価（C・D）が15.9パーセントを見逃すことはできない。児童アンケートの質問番号9では、肯定的評価（A・B）が74.4パーセントであるが、否定的評価（C・D）が25.6パーセントである。この結果を真摯に受け止めたい。

「生徒指導について」の項も、高い評価結果といえるが、課題も残る。

改善策

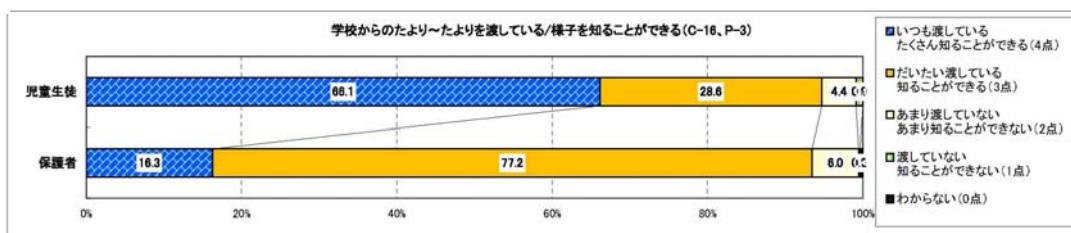
- ・キャリア教育については、数値に変化はあったものの前期と同じ傾向であった。児童の発達段階にあった夢や希望の実現に向けた将来設計能力、人間関係形成能力等の生き方教育（キャリア・進路指導）についても、県の指導重点項目にも掲げられているので、これからも積極的に取り組んでいきたい。
- ・学校の教育全体を通じて、社会をよりよく生きていくための規範意識の定着に努めなければならない。
- ・報告・連絡・相談・確認体制の徹底を図るとともに、問題や課題に対し迅速に全教職員で共有し、共通理解にもとづいた対処・対応に努めなければならない。
- ・学校では一番身近にいる教職員が、子どもや保護者の相談に対応する気配りと対応できる態勢を整えなければならない。

V 地域との連携について

達成状況

質問項目の9項目の全てが、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中でも質問内容3～6・9については、B評価よりA評価の方が高い評価結果であった。特に質問番号9は、ふるさと山梨道徳推進事業の指定校ということで、教職員の意識も高く、地域への働きかけも積極的に行い、地域の人材活用を行った結果といえる。しかし質問番号1・2・7・8の4質問はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。

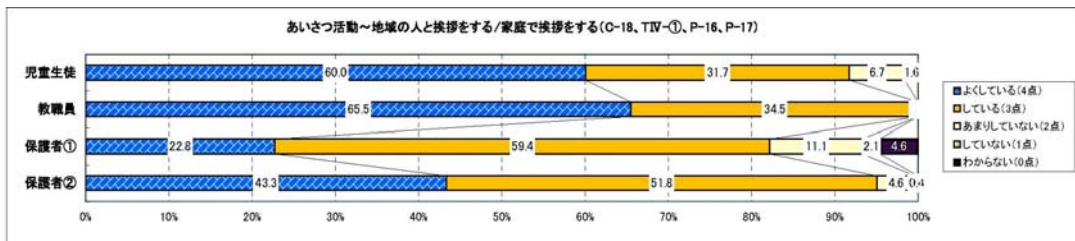
また、保護者アンケートより質問番号19の学校評議委員制度については、年々理解はされるようになってきたが、否定的評価Cが、34.4パーセントと高く、今後の課題である。学級だより・学年だより・学校だよりやホームページ等で、リアルタイムで学校の教育活動の様子を積極的に発信したので、保護者はもちろん地域の方にも学校の様子を知っていただけた。「地域と連携について」のこの項目も、高い評価結果といえる。



- ・各種たよりやホームページまた総会等で学校評議員や学校関係者評価委員会については、知らせていきたい。また、学校評価制度についても、内容をわかりやすく説明し、より周知されるよう努めていかなければならない。
- ・学校への要望等に対し、積極的に受け止める姿勢を今後も大切にしていかなければならない。また、学校の情報も各種たより（学級だより・学年だより・学校だより・保健だより・図書館だより）やホームページ等を積極的に活用し、リアルタイムで発信していくことを継続したい。

VI 学校の特色に関して

質問項目の8項目の全てが、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中でも7項目がB評価よりA評価の方が高い結果であった。朝の読書タイムも1週間のうち4日を設定し、取り組んだ成果である。しかし質問番号5はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。「もう少し」と思う気持ちが、B評価を高くしていると思われる。D評価はなかった。挨拶については、教職員は指導に努めてはいるが、子どもと保護者のとらえ方の差が大きい。子どもは肯定的評価Aだが、保護者は肯定的評価Bである。数値のみで推しはかることはできないが、全5項目の中で「学校の特色に関して」の項は、特に高い評価結果といえる。



3 まとめ

〈成果〉

- ・自らの教育活動や学校運営に対し、組織的・継続的な改善を図るために、学校評価の実施及び公表することで、保護者や地域住民理解と協力を得て、その連携・協力により地域に開かれた信頼ある学校作りが推進できていることが確認できた。
- ・心の教育を中核とした本校の教育について、成果と課題の共有が職員間できた。
- ・読書タイムの設定により、図書館の活用と読書量が増えた。

〈課題〉

- ・わかる授業や楽しい授業の創造に向けて、教材研究や実践研究を進め、教職員の力量をつけないなければならない。
- ・挨拶については、学校や子ども同士で声かけはしているものの「躰」や「習慣化」という点で、家庭との連携を密にしなければならない。
- ・地域人材等も活用し、生きる力をはぐくむために、キャリア教育を推進しなければならない。



▲ 1年生の昔遊び集会の様子



▲ 3年生のスケート教室